

立教大学学術推進特別重点資金（立教SFR）
共同研究会経費補助
2006年度研究成果報告書

共同研究会名	立教大学マルクス経済学研究会	
研究テーマ	『資本論』の再検討－「利潤率の傾向的低下法則」と恐慌論の関連から	
研究代表者	所属・職名	氏名
	経済学部 助教授	前畑 憲子 印
幹事	所属・職名	氏名
	経済学研究科	植竹 美乃里 印
共同研究会 組織	所属大学名等・職名	氏名
	立教大学大学院経済学研究科	松下 和輝
	立教大学大学院経済学研究科	川崎 志帆
	立教大学経済学部・助手	飯島 寛之
	立教大学非常勤講師	堀内 健一
研究期間	2006 年度	
研究経費	2006 年度	
	200 千円	

研究会の概要及び研究会で行った研究成果の概要

＜研究会の概要＞ (100～150 字で記入、図・グラフ等は使用しないこと。)

本研究会の目的は、①本学の「経済原論 A」に適したテキストの作成、②マルクス恐慌論の理解とそれに基づいた現状分析である。この目的のため、月 2 回の間隔で研究会を開き、議論を行った。そこでは、各メンバーの専攻に応じて担当する章を分担し、各自テキストの下書きを作成し報告・検討した。その他、合宿で集中的に議論を行い、また、『図解 社会経済学』の著者である大谷禎之介氏を招請し、助言をいただいた。

＜研究成果の概要＞ (300～400 字で記入、図・グラフ等は使用しないこと。)

本研究の成果はおおまかに 2 つに分類される。第一の成果は、『「図解 社会経済学」を読む——経済原論 A 講義ノート』（桜井書店、2007 年 4 月）の作成である。この講義ノートは経済学部講義「経済原論 A」での使用を目的とするものであり、その特徴のひとつは、従来講義で使用してきた『図解 社会経済学』の分量が多く、それゆえ講義を理解する十分な時間を確保できなかったということ踏まえ、内容・理解を歪めない程度に章を削り、分量を減らしたという点である。そこでは、マルクス恐慌論の体系的理解——利潤率の傾向的低下と恐慌との関連——を目指すという講義の主旨が貫かれている。また、講義はもとより、マルクス経済学の体系的な理解の助けとなるように、各章における重要な語句には注を付し、その語句がどの章と関連するのかを明記したことも特徴である。

第二の成果は、各個人の問題意識を研究会での議論の俎上にのせ、それについて議論・討論を経ることによって、個別論文が作成されたことである。字数の制約上、各自の研究論文は後述する。

キーワード (研究内容をよく表しているものを 3 項目以内で記入。)

[マルクス経済学] [利潤率の傾向的低下法則] [恐慌・産業循環]

※ この(様式 2)に記入の、成果の公表を見合わせる必要がある場合は、その理由及び差し控え期間等を記入した調書(A 4 縦型横書き 1 枚・自由様式)を添付すること。